

短歌 (二十二)

下田 明美

ネコの恋、我が家の庭はハーレムか

久々に小窓を開けて小春日を

黒猫一匹、虎が三匹

手に掬い取る腰痛ありて

木や草に初雪降った、つかの間に

怖き夢振り払おうと朝風呂に

太陽出れば跡形もなく

浸かっておればカラスが鳴いた

手のひらにカリンの実一つ乗せてみる

リビングでカタコトカタと音がする

使いみち無く悩みの果実

座敷わらしがやって来たかも

玄関から出口への坂道に

親友に勇気を出して三つだけ

手摺りができた介護保険で

レモンを贈る残りは七個

寂しさは峠の方から降りてくる

みかんの花咲く丘を吹き抜け

レモンの実、陽に輝いて甘えてる

小さい時から私が育てた

からからになった畑に散水し

小松菜蒔いた雨あめフレフレ

クリスマス・ローズの花は如月に

咲くのに何故かクリスマス・ローズ

立冬を過ぎても今年は暖かい

レンゲツツジが狂い咲きしている

伊東から東京へ送った花便り

電話で伝えた梅が咲いたと

